

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

鳥羽市

平成 29 年 10 月

本年 4 月に小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、8 月 28 日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本市（町）における児童生徒の学力の定着状況、生活習慣、学習状況等の分析結果、今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における下記の「5 調査結果の取扱い」の「（5）調査結果の取扱いに関する配慮事項」をご覧ください。

（5）調査結果の取扱い

文部科学省は、以下のとおり、調査結果を示し、公表するとともに、各教育委員会、学校に対して、調査結果等を提供する。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 21 条第 17 号の規定により、調査の実施、調査結果の活用及び公表等を含め、調査は教育委員会の職務権限である。そのため、教育委員会は、調査結果の活用及び公表等の取扱いについて、主体性と責任を持って当てることとする。

調査の概要

・調査の目的

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全市的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する目的で実施されています。

・調査の対象および実施した公立学校数・児童生徒数

区分	小学校第 6 学年	中学校第 3 学年
学校数	8 校	* 4 校
児童生徒数	1 4 7 名	1 7 3 名

（* 神島中学校は 3 年生が欠学年のため、実施していません。）

1 教科に関する調査の結果・分析

(1) 鳥羽市における特徴的な傾向

＜小学校国語 A＞

○強み

- ・今年度については特にありません。

○弱み

- ・問題 3：正答率 64.6%（三重県 73.0%，全国 74.4%）

目的に応じて、文章中のどの段落を読めばよいのか、必要な情報は何なのかを判断することができていないと考えられます。

- ・問題 5 イ：正答率 72.1%（三重県 81.6%，全国 83.6%）

ことわざの（意味）が書かれているが、適切なものを選んでいないことから、選択肢の文意を捉えていないことが課題と考えられます。

- ・問題 6：正答率 59.2%（三重県 68.8%，全国 71.1%）

選択肢の単語のみをとらえ、文意を捉えられていないと考えられます。

- ・問題 7（1）：正答率 29.3%（三重県 37%，全国 42%）

「対象」の「象」を別の字で解答した児童が多く、同音異義語に課題があります。

■全体の傾向から見られる課題

- ことわざや漢字の書き取り等，言語についての知識・理解・技能に課題が見られます。練習を重ねるだけでなく，別の読み方を同時に学んだり，実際に文や文章の中で正しく使ったりすることで習熟していくことが必要です。また，日常から国語辞典を活用する機会を増やしていきたいと考えています。

＜小学校国語Ｂ＞

○強み

- ・問題３二：正答率 31.3％（三重県 26.7％，全国 28.0％）
- ・問題３三：正答率 46.7％（三重県 43.2％，全国 43.7％）

必要な条件を満たし，適切な叙述を取り上げて書くことができています。

○弱み

- ・問題３一：正答率 66.0％（三重県 76.3％，全国 75.9％）

選択肢の単語のみをとらえ，問われていることや文章中の意味を捉えられていないと考えられます。

○無解答

- ・問題３三：無回答率 23.1％（三重県 20.0％，全国 19.4％）

最終問題であったために，十分な時間を確保できずにできなかったことが考えられます。また，長い問題文から３つの条件を満たして書くことに慣れていない児童が解答欄に書くことができなかったと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 問題３一の「不思議な」を選択する問題において，「にぎやかな」を選択した児童が多く見られました。本文中にある「あたりの木がいつせいにざざとゆれてよびました。」の中の「ざざと」と「にぎやか」を結び付けた児童もいたと考えられます。選択式の問題形式において，文意を捉えるよりも選択肢の似ている言葉から判断して，選んでしまっているという課題がみられました。

＜小学校算数Ａ＞

○強み

- ・問題２（３）：正答率 71.4%（三重県 63.2%，全国 66.6%）
四則計算の法則を理解し，整数と小数の計算ができています。
- ・問題９（２）：正答率 68.7%（三重県 60.2%，全国 62.8%）
二次元表について理解し，合計欄の意味を捉えています。

○弱み

- ・問題１（２）：正答率 59.9%（三重県 70.4%，全国 69.9%）
□が代金を表していることは捉えているが，買うリボンの長さと代金を対応させることはできていないと考えられます。
- ・問題３：正答率 74.8%（三重県 84.4%，全国 86.2%）
８と１２の最小公倍数を答える問題で，「９６，４，２」と答えている児童が多いことから，最小公倍数，最大公約数の用語の意味を捉えていないと考えられます。
- ・問題４：正答率 61.9%（三重県 68.9%，全国 70.7%）
- ・問題８：正答率 74.1%（三重県 81.5%，全国 83.6%）
□を用いて式に表すことは相当数の児童ができています。しかし，誤答の多くは問題文に示されている数量の順番に着目し，乗法の場面であると捉えていると考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 未知の数量を□などの記号を用いて表現することについて，問題場面を適切に捉えることに課題がみられます。
低学年から場面，図，式を関連付ける活動を設けることが，場面を的確に捉え，数量の関係を式に表現する能力を育成することが大切と考えます。

＜小学校算数Ｂ＞

○強み

- ・今年度については特になし。

○弱み

- ・問題２（２）：正答率 17.7%（三重県 24.9%，全国 27.4%）

手紙の長い辺を３等分する点について、点どうしの間が４行ずつになることは理解しているが、直線に置き換えて数えるところが難しかったと考えられます。

- ・問題５（１）：正答率 57.8%（三重県 65.6%，全国 67.9%）

「14%長い」ということを正しく捉えることができずに割合と量を混同していると考えられます。

○無回答率

- ・問題２（１）：12.9%（三重県 7.1%，全国 6.4%）

- ・問題３（２）：20.4%（三重県 16.9%，全国 12.7%）

表や文章から情報を読み取ることが難しく、解答の書き方がわからずにあきらめてしまう児童が多くいたことが考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 問題文の文章量が多く、必要な情報や数量を選びとることに慣れていない児童には捉えにくく、正答率の落ち込みが見られたと考えられます。また、問題２，３に見られるように書かれている求め方を応用して問題を解いていくことが課題とみられます。

＜中学校国語Ａ＞

○強み

- ・問題 9－1：平均正答率 78.9%（三重県 69.6%，全国 62.8%）
問題 9－2：平均正答率 72.5%（三重県 61.8%，全国 62.3%）
間違いやすい漢字についても正しく用いることができており，必要な力を身につけています。

○弱み

- ・問題 9 六 1：平均正答率 57.8%（三重県 48.6%，全国 49.6%）
- ・問題 9 六 2：平均正答率 64.9%（三重県 63.4%，全国 63.7%）
全国平均を上回っていますが，行書や筆脈など学習する際に用いる言葉について理解するとともに，「点画の連続」や「点画の省略」などの行書の特徴を理解して文字を書くことが必要と考えます。
- ・問題 7 一：平均正答率 43.9%（三重県 51.0%，全国 54.0%）
50%近くの生徒が会話中の「それ以外」を文意から捉え，違う言葉に言い換えることができていません。
- ・問題 7 二：平均正答率 68.4%（三重県 78.0%，全国 80.4%）
会話文にある「青春」，「思いつきませんでした」等の文字のみを捉え，文意から考えを導くことができていないと考えられます。
- ・問題 9 三イ：平均正答率 24.6%（三重県 17.6%，全国 17.2%）
「急がば回れ」，「一事が万事」，「論より証拠」などなじみがなく，意味が理解できていないと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 選択式の問題形式において，文意を捉えるよりも似ている言葉から解答を選んでしまっていることが考えられます。小学生にも同様の傾向がみられるため課題の共有が必要と考えています。

＜中学校国語Ｂ＞

○強み

- ・問題３三：平均正答率 70.2％（三重県 67.4％，全国 68.8％）
必要な情報を集めるための見通しを持つことができています。一方で，日常から相手意識を持ち，必要な情報を選択し発信することが必要であると考えます。

○弱み

- ・問題１三：平均正答率 30.4％（三重県 38.2％，全国 41.4％）
比喻を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くという条件を満たしていない解答が多い傾向がありました。また，「すごい」などの表現を使って，感じたことや考えたことを具体的に書くことができていない解答が多く見られました。

■全体の傾向から見られる課題

- 生徒が「目的や必要に応じて」発信することが必要です。その場合，日常から相手の反応を踏まえて臨機応変に対応したり，事実や事柄が相手にわかりやすく伝えたりできるよう，常に相手意識を持って行う経験を重ねる必要があると考えます。

＜中学校数学 A＞

○強み

- ・問題 2 (3) : 平均正答率 87.1% (三重県 79.6%, 全国 78.5%)
簡単な整式の加法, 減法の計算をすることができており, 相当数の生徒ができています。ひく方の式の各項の符号を変えることについて, しっかり定着していると思われます。

○弱み

- ・問題 3 (3) : 平均正答率 48.8% (三重県 57.8%, 全国 59.6%)
二元一次方程式とその解の意味の理解に課題があります。整数の範囲だけで考え, 分数や少数の範囲まで考えていないと思われます。
- ・問題 5 (4) : 平均正答率 43.5% (三重県 51.8%, 全国 51.8%)
円柱の体積を求めることに課題があります。まずは, 円の面積を求めることができるようになる必要があります。
- ・問題 6 (1) : 平均正答率 33.5% (三重県 45.0%, 全国 43.1%)
錯角の意味の理解に課題があります。錯角は平行な 2 直線に 1 直線が交わった場合のみに存在するものと捉えていると考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 数と式の「数学的な技能」の観点において基本的な力は付いています。関数, 図形などの「数学的な技能」の観点に課題がみられます。

＜中学校数学B＞

○強み

- ・問題5（2）：平均正答率 58.2%（三重県 50.4%，全国 50.3%）
資料の分布の様子を捉えた上で、目的によって資料の傾向を表す代表値を使い分けることができます。

○弱み

- ・問題3（3）：平均正答率 32.4%（三重県 41.8%，全国 43.2%）
問題解決において用いた式を事象に即して捉え直し、解釈し、的確に処理することに課題があります。具体的な事象について、変域を使って表現することや変域を意識しながら事象を捉えることが大切です。
- ・問題4（1）：平均正答率 38.2%（三重県 46.1%，全国 44.1%）
三角形の合同についての理解度が低く、筋道を立てて考え証明することに課題があります。論理的に考察し表現する能力を養う必要があります。

■全体の傾向から見られる課題

- 「数学的な見方や考え方」の観点の図形分野に課題がみられます

（2）無解答率の状況

問題に対して無回答が多いほど、無回答率は高くなります。

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
鳥羽市	2.63	5.44	2.69	8.12
三重県	2.77	4.32	1.44	6.64
全 国	2.27	4.31	1.59	6.42

中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
鳥羽市	2.41	3.12	8.52	8.39
三重県	2.01	3.72	5.39	10.95
全 国	2.43	3.80	6.25	11.71

中学校のB問題において無回答率が低かったです。普段からあきらめずに取り組む指導の成果であると考えられます。一方で小学校における無回答率はいずれも全国の数値よりも高かったため、授業中から問題に積極的に取り組む姿勢を育てていくことが必要であると考えます。

(3) 各教科の平均正答率概要

(単年)

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
鳥羽市	全国と比べて やや低い	全国と比べて やや低い	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い
三重県	74	57	77	45
全 国	74.8	57.5	78.6	45.9

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
鳥羽市	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い
三重県	77	71	65	47
全 国	77.4	72.2	64.6	48.1

平均正答率については、全国、三重県、鳥羽市いずれも公立校のみの結果を集計した値です。概要については、全国と鳥羽市の差異が±3.0 ポイント以内を「ほぼ同じ」、±3.1～6.0 を「やや高い、低い」と表しています。

(経年) 小学校 6 年生時 (H26) と中学校 3 年生時 (H29) の平均正答率に変化について

中学校 3 年生において、小学校 6 年生時との平均正答率を比較した結果、すべてにおいて全国との差が縮まっていました。

中学校生徒は、定期テスト等で多様な問題に取り組む機会が多く、初めての問題に対しても積極的に取り組むことができていたと考えられます。また、中学校の指導者は普段から入試問題等の分析とともに、それを生かした問題作成及び指導を行っているため改善されたものと考えられます。

2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

（１）児童生徒質問紙調査に関する結果から特に大切にしたいもの

①家庭学習への取組

計画的に学習を行っている児童・生徒が昨年度より増加しています。

中学校で復習を行っている生徒が増加している一方で、小学校ではかなりの減少が見られます。

（質問：小２９，中３１）家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

小学校	H28	H29
鳥羽市	60.5	66.7
三重県	61.7	62.8
全 国	62.2	64.5

中学校	H28	H29
鳥羽市	44.3	65.2
三重県	50.3	54.3
全 国	48.4	51.5

（質問：小３１，中３３）家で、学校の授業の予習をしていますか。

小学校	H28	H29
鳥羽市	50.8	44.9
三重県	44.2	41.6
全 国	43.3	41.0

中学校	H28	H29
鳥羽市	43.6	39.5
三重県	34.8	33.4
全 国	34.2	31.7

（質問：小３２，中３４）家で、学校の授業の復習をしていますか。

小学校	H28	H29
鳥羽市	63.5	50.4
三重県	54.2	51.1
全 国	55.2	53.8

中学校	H28	H29
鳥羽市	47.2	61.6
三重県	48.5	48.6
全 国	51.0	50.5

②基本的生活習慣

各家庭でルール作りについて話をすることが大切と考えます。

(質問：小中１・２・３)

基本的な生活習慣を身につけた子どもたちの割合

(朝食・起床就寝を「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の平均値【小数点以下を四捨五入】)

小学校	H28	H29
鳥羽市	87.8	87.1
三重県	89.1	88.6
全 国	89.1	88.8

中学校	H28	H29
鳥羽市	88.3	86.9
三重県	87.4	87.1
全 国	86.9	88.6

③自尊感情

6項目中4項目において全国値を上回っています。子どもたちが失敗を恐れずに挑戦できるように、結果を追うのではなくその過程や努力を学校・家庭・地域が認めていけるようにしていきたいと考えます。

(質問：小中6) 自分にはよいところがあると思う。

小学校	H28	H29
鳥羽市	78.4	85.0
三重県	75.5	77.4
全 国	76.3	77.9

中学校	H28	H29
鳥羽市	71.6	80.2
三重県	71.3	73.2
全 国	69.3	70.7

(質問：小中5) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する

小学校	H28	H29
鳥羽市	79.8	76.7
三重県	77.1	80.7
全 国	76.1	80.7

中学校	H28	H29
鳥羽市	70.5	83.7
三重県	70.8	73.2
全 国	69.6	71.0

(質問：小10, 中9) 将来の夢や目標を持っていますか。

小学校	H28	H29
鳥羽市	83.6	80.9
三重県	83.7	84.4
全 国	85.3	85.9

中学校	H28	H29
鳥羽市	71	78.5
三重県	71	71.2
全 国	71.1	70.5

④めあてと振り返りについて

小・中学校全体での取組の積み重ねにより子どもたちにとっても日常化してきています。今後は特に「振り返る活動」について質の向上を目指していく必要があります。

(質問：小6 1, 中6 3) 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

小学校	H28	H29
鳥羽市児童	90.3	94.5
鳥羽市学校	100	100
全国児童	87.6	88.2

中学校	H28	H29
鳥羽市生徒	96.0	97.7
鳥羽市学校	100	100
全国生徒	84.9	87.8

(質問小6 2, 中6 4) 学習活動を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

小学校	H28	H29
鳥羽市児童	83.5	90.4
鳥羽市学校	100	100
全国児童	76.1	76.2

中学校	H28	H29
鳥羽市生徒	85.8	87.7
鳥羽市学校	100	100
全国生徒	63.1	66.1

(2) 鳥羽市として大切にしたい10個の項目の経年変化
(経年変化) 小学校

	質問項目		H27	H27→ H28	H28	H28→ H29	H29	H27→H29
①, ②, ③については, 低い方が改善しているものとします。								
①	平日のテレビ等の視聴 (3時間以上)	本市	46.3	↗	43.2	↗	41.5	—
		全国	36.1		32.8		32.7	A
		全国との差	10.2	↘	10.4	↘	8.8	
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(3時間以上)	本市	15.7	↘	20.9	↗	19.8	+
		全国	17		16.0		17.6	C
		全国との差	-1.3	↘	4.9	↘	2.2	
③	平日のスマホの通話やメール, インターネットの使用(3時間以上)	本市	4.7	↘	5.2	↘	8.2	+
		全国	5.7		5.8		7	C
		全国との差	-1.0	↘	-0.6	↘	1.2	
④	平日の学習時間 (1時間以上)	本市	45.6	↗	61.2	↗	73.4	+
		全国	62.7		62.5		64.4	A
		全国との差	-17.1	↗	-1.3	↗	9	
⑤	休みの日の学習時間 (1時間以上)	本市	45.5	↗	46.2	↗	59.8	+
		全国	56.7		57		57.3	A
		全国との差	-11.2	↗	-10.8	↗	2.5	
⑥	平日の読書時間(30分以上)	本市	36	↗	37.3	↘	32.7	C ⁻
		全国	37.7		36.5		36.5	
		全国との差	-1.1	↗	0.8	↘	-3.8	
⑦	いじめはどんな理由があってもいけないと思う	本市	98	↘	97	↗	97.2	—
		全国	96.2		96.6		96.1	C
		全国との差	1.8	↘	0.4	↗	1.1	
⑧	5年生までに受けた授業では, 先生から示される課題や, 学級やグループの中で, 自分たちで立てた課題に対して, 自ら考え, 自分から取り組んでいたと思いますか。	本市			76.2	↗	80.9	+
		全国			77.8		77.9	A
		全国との差			-1.6	↗	1	
⑨	授業では学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っている。	本市	65.3	↗	86.6	↘	86.4	+
		全国	66.9		83.4		84.5	A
		全国との差	-1.6	↗	3.2	↘	1.9	
⑩	5年生までに受けた授業では, 学級やグループの中において自分たちで課題を立てて, その解決に向けて情報を集め, 話し合いながら整理して, 発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	本市	74.1	↗	75.4	↗	81	+
		全国	74.2		75.7		75.1	A
		全国との差	-0.1	↗	-0.3	↗	5.9	

矢印は, 「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し, ↗は「改善・上昇」, →は「変動なし」, ↘は「下降」を表す。

A・B・Cは, 「全国との差」の変位を表し, Aは「改善・上昇」, Bは「変動なし」, Cは「下降」を示す。

表中の＋・－は、「本市の割合」の変位を表し、＋は「改善・上昇」、－は「下降」を表す。

(経年変化) 中学校

	質問項目		H27	H27→ H28	H28	H28→ H29	H29	H27→H29
①, ②, ③については、低い方が改善しているものとします。								
①	平日のテレビ等の視聴 (3時間以上)	本市	32.1	↓	28.4	↑	23.8	＋ A
		全国	30.5		24.1		25.3	
		全国との差	1.6		4.3		-1.5	
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(3時間以上)	本市	24.8	↑	22.7	↑	21.5	＋ A
		全国	20.5		18.9		21.4	
		全国との差	4.3		3.8		0.1	
③	平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用(3時間以上)	本市	21.2	↓	22.8	↑	19.8	＋ A
		全国	18.2		16.6		18.1	
		全国との差	3.0		6.2		1.7	
④	平日の学習時間 (2時間以上)	本市	30.6	↓	26.7	↑	39.5	＋ A
		全国	35.7		34.2		35.4	
		全国との差	-5.1		-7.5		4.1	
⑤	休みの日の学習時間 (2時間以上)	本市	43.0	↓	38.1	↑	48.3	＋ A
		全国	43.0		40.1		41.8	
		全国との差	0		-2.0		6.5	
⑥	平日の読書時間(30分以上)	本市	30.7	↓	27.3	↓	25.6	C -
		全国	30.6		28.2		29.2	
		全国との差	0.1		-0.9		-3.6	
⑦	いじめはどんな理由があってもいけないと思う	本市	97.1	↓	95.4	→	95.4	- C
		全国	93.7		93.6		92.8	
		全国との差	3.4		1.8		2.6	
⑧	1・2年生の時に受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	本市	*		78.4	↑	85.5	＋ A
		全国	*		73.8		74.9	
		全国との差	*		4.6		10.6	
⑨	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする。	本市	65.7	↑	84	↑	87.8	＋ A
		全国	62.9		77.8		81.8	
		全国との差	2.8		6.2		6	
⑩	1・2年生の時に受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	本市	77.3	↑	73.9	↑	78.1	＋ A
		全国	71.3		69.3		65.7	
		全国との差	6.0		4.6		12.4	

矢印は、「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し、↑は「改善・上昇」、→は「変動なし」、↓は「下降」を表す。

A・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」、Bは「変動なし」、Cは「下降」を示す。

表中の＋・－は、「本市の割合」の変位を表し、＋は「改善・上昇」、－は「下降」を表す。

3 鳥羽市教育委員会による学校支援とその成果等の状況

- 各校における公開授業、事後検討会の場の充実をめざすことで、指導者の授業力向上に取り組んできました。検討会の場における指導助言では、市内外の先進的な実践例や学校全体での学力向上への取組事例を紹介することで、各校における実践の深まりを図ってきました。例えば、小学校国語科における単元を見通した言語活動への取組事例の広がりがあります。指導者が、指導事項を明確に持つことで、その単元でつけるべき力をこれまで以上にはっきりと意識して授業を行う姿が多く見られました。
- 基礎学力向上研究委員会において、三重県教育委員会が作成した「ワークシート」の活用を進めてきました。意欲的に取り組んだ児童生徒が「書く」問題において最後まであきらめずに取り組むことができたという結果が出ています。各校における日々の児童生徒との積み上げが身を結んでいるとともに、ワークシートによって多様な問題を経験していたことも大きな力の一つであったと考えています。

4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

- 鳥羽市全体で共有し、今後とも重点として行っていくことを以下のようにします。
 - ・学校全体で子どもたちの課題を共有し、同じ方向性を持って授業改善に取り組みます。(詳しくは下記)
 - ・子どもたちが学んだことを十分に発揮できるようにワークシートの活用等、多様な問題への取組を進めます。(詳しくは下記)
 - ・各校において、学校長が普段の授業の様子を見て回り、子どもの様子や教員の指導について気が付いたことを助言していきます。
 - ・「めあてと振り返り」が授業で確実に位置づけられています。特に振り返りについて、子どもたちが学習を深め、意欲的に次の学習につなげられるように質の向上を目指します。
- 『「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことでも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。教員が教えることにしっかり関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。』と中央教育審議会の答申にあります。鳥羽市においても、これまでに大切にされてきた子どもが自ら考え、仲間と共に学び、課題を解決していく学習を推進していくことが深い学びにつながっているものと考えます。ただ、教員は授業を進めていく上で、「全国学力・学習状況調査」「みえスタディチェック」を検証ツールととらえ、客観的な視点から子どもたちの課題を捉えることで学習効果を高めることができます。目の前の子どもたちが「何に困り、何をわかりたいのか」を知り、授業計画→授業実践→授業反省→授業改善というPDCAサイクルを確立していくことが必要と考えています。
- 自分たちで課題に取り組み、一人一人がよく考え、「できるとすごくうれしい。」と話すようになった子どもの変容を目の当たりにし、喜びを実感する教員の姿があります。この姿は学校全体で「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感させるため、授業改善の取組を繰り返したからこそ見られたものだと考えます。今後も各校において、学校長を中心に組織的・継続的な授業実践を推進していきます。

また、三重県教育委員会作成の「ワークシート」「学-viva セット」等を、子どもたちにとっては力試しの場として、教員にとっては多様な問題に対する解答から現状把握を行うツールとして、活用の推進を図ります。

- 地域の実態に合わせ、時には地域の力を借りて、子どもたちが学びを発信していく場を設定することが必要と考えています。自分の力で発信していくことは、日々の学びを様々な面から引き出すことにつながります。必要な情報を選択し、相手を意識して表現する能力を育てていくことは、子どもたちが生きていく社会に欠かせない能力です。例えば、菅島小学校では「島っ子ガイド」でたくさんの島の名物から、ガイドする相手への意識を持って必要なものを選び取り紹介しています。また、培った経験が普段の生活や授業の中にも表れるという双方向の効果が出ています。このように、子どもたちが普段の学習で培った力を実感する場を、各校や地域の実態に合わせて設定していくことが必要であると考えています。

- 全体を通じて、以下の点を押さえた指導の充実を今年度も図っていきます。

- ・ 児童生徒が資料を使って発表できる指導
- ・ 発展的な学習【国語科、算数・数学科】
- ・ 目的や相手に応じて話したり、聞いたりする授業【国語科】
- ・ 実生活における事象との関連を図った授業【算数・数学科】
- ・ 地域の人材を外部講師として招く授業
- ・ 自分で調べたこと、考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導
- ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ・ 他の考え方を受け入れ、判断する力を養う指導

（間違いに対して、「相手の考え方を受け止め、何を加えれば「正答」になり得るか考えさせる。」

市内各校においてこれらを児童生徒の状況に応じて選択し、組織的・継続的な取組を推進していきます。